

令和 8 年玉村町議会第 2 回定例会会議録第 5 号

令和 8 年 6 月 5 日（金曜日）

議事日程 第 5 号

令和 8 年 6 月 5 日（金曜日）午前 9 時開議

日程第 1 一般質問

本日の会議に付した事件

議事日程に同じ

出席議員（１３人）

1 番	川 端 悟 君	2 番	峯 岸 敬 一 君
3 番	笛 木 美登利 君	4 番	嶋 田 由紀子 君
5 番	井 上 景 子 君	6 番	松 本 幸 喜 君
7 番	羽 鳥 光 博 君	8 番	堀 越 真由子 君
9 番	備前島 久仁子 君	10 番	高 橋 茂 樹 君
11 番	浅 見 武 志 君	12 番	月 田 均 君
13 番	新 井 賢 次 君		

欠席議員 なし

説明のため出席した者

町 長	石 川 眞 男 君	副 町 長	萩 原 保 宏 君
教 育 長	鈴 木 寛 史 君	総 務 課 長	丸 山 智 志 君
企 画 課 長	関 根 伸 行 君	税 務 課 長	貫 井 利 行 君
健康福祉課長	岡 田 寛 子 君	子ども育成課長	畑 中 哲 哉 君
住 民 課 長	齋 藤 博 君	環境安全課長	齋 藤 智 彦 君
経済産業課長	平 野 敏 行 君	都市建設課長	原 田 英 樹 君
上下水道課長	上 村 明 弘 君	会 計 管 理 者 兼 会 計 課 長	加賀美 博 隆 君
学校教育課長	青 木 栄 二 君	生涯学習課長	金 子 英 明 君

事務局職員出席者

議会事務局長	関 根 聡 子	局 長 補 佐	萩 原 穰
庶務係兼 議事調査係	爲 谷 麻 友		

○開 議

午前 9 時開議

◇議長（新井賢次君） 着席願います。おはようございます。ただいまの出席議員は 13 名であります。定足数に達しておりますので、これより本日の会議を開きます。

本日の議事日程は、あらかじめお手元に配付したとおりであります。



○日程第 1 一般質問

◇議長（新井賢次君） 日程第 1、一般質問を行います。

4 日に引き続き順次発言を許します。

初めに、9 番備前島久仁子議員の発言を許します。

〔9 番 備前島久仁子君登壇〕

◇9 番（備前島久仁子君） おはようございます。議席番号 9 番備前島久仁子でございます。台風の後の大変すがすがしいお天気の朝でございます。傍聴の皆様、ありがとうございます。そして、今日は私一人の一般質問でございますので、私一人のために皆様お集まりいただきました。本当にありがとうございます。できるだけ多くの課長さんにも答弁をいただきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。それでは、始めてまいります。

この 4 月に東京大学入学式で、演出家の野田秀樹氏が 3,000 人近い東大生を前にしまして祝辞を述べて、この内容がすばらしいと話題になっているので、少しご紹介させていただきます。内容は、ここにいる 3,000 人が 1 人 20 年間生きていたとすると、3,000 掛ける 20 で 6 万年分の記憶がこの武道館に集まっている。頭脳の集まりであって、ただの入学式ではない。そこで、この若き東大生の 6 万年分の記憶パワーを AI とバトルさせたらどうなるでしょうかという内容です。AI は、できるだけ多くの情報をあっという間に記憶して答えを出してくる。この AI に、記憶ばりばりの東大生が 6 万年分の記憶で太刀打ちができるのかという内容なのです。AI は記憶力に優れているし、物忘れがない。AI が急速に進化している時代だが、AI には知識以外の体と心がない。これが AI の最大の弱点であると野田氏は話しております。人間には体と心があり、それが人間の最大の武器です。創作の喜びや問題が解けたときの感動、愛情、若さ、恐怖などの感情は、人間のみが持つものです。東大生は若い。若い肉体から生まれる心を大切にしてください。東大生のあなたたちは、知識しか知らない脳みそになってはならない。心を伴った脳みそであってほしい。AI は、あなた方の若い体とその体に根差す若い心を超えることは決してない。未来を決定するのは AI ではなくて、人の心だと東大生にエールを送っております。感動いたしましたので、ご紹介いたします。興味のある方は、AI に聞いてください。すぐに出てまいります。それでは、通告に従いまして質問させていただきます。

まず、1 番目といたしまして、住民サービスを低下させないための役場庁舎増築基本計画について

伺います。玉村町の役場庁舎は、1985年に建設されたRC造4階建てで、延べ床面積は3,695平方メートルです。当時の人口は2万4,944人であり、40年前に建設された役場庁舎は人口2万人に対応できる役場建設であったことが分かります。こういう情報は、AIがすぐ調べてくれます。

市町村別の面積査定基準によると、最近建設された庁舎の職員1人当たりの面積では平均が32.38平方メートルであり、最高は49平方メートルとなっています。

現在、町の人口は3万5,000人余りであり、社会情勢の変化や町民からの要望が多岐にわたっているため、相談室や会議室などの機能が不足して、施設全体では狭隘化しているのが現状であります。そこで、住民サービスを低下させないための役場庁舎の増築構想が必要であり、以下について伺います。

まず、1つ目、現在の職員の数と、1人当たりの作業空間面積はどうなっているのか伺います。

2つ目、住民課や子ども育成課は、誰が見ても空間が狭くて、会議や相談のためのスペースが足りないと感じますが、この2課以外でも特に狭隘と感じる課はあるのでしょうか。

3つ目、今後増築を図るに当たり、課の編成や統合、あるいは分離するほうがよいのか否か、考慮が必要であると思いますが、今後どのような協議を経て、いつまでに方向性を見いだすのか。

4つ目、役場庁舎の北側への増築だけでなく、住民活動サポートセンターの施設や勤労者センターの老朽化も考慮した役場周辺の計画が必要ではないかと思いますが、いかがでしょうか。

5つ目、今後の設計、建設にかかる期間はどうか伺います。

2番目としまして、女性の管理職登用が進まない原因と、未来へ向けた町の取組について伺います。日本新聞協会が2025年において、協会に加盟する新聞、通信社全99社、3万人に調査しました「ジェンダー・多様性に関する意識調査」では、職場での男女の地位が平等と回答した男性は40.7%だったのに対して、女性は26%であり、公平性の認識にギャップがあると発表しております。平等でないと感じる場面では、男女ともに「管理職や経営層に登用される男性が多い」というのがトップであり、性別による働きにくさを感じたことは全体の40%近くがイエスと答えております。そこで、以下の質問をいたします。

1つ目、町の課長職は14名の中で女性は僅か2名であります。この現実をどう評価しているのか伺います。

2つ目に、女性の課長補佐が不在であり、段階的なステップアップ育成をどのように考えているのか伺います。

3つ目としまして、係長に昇進する男女別の平均年齢と男女の割合について伺います。

第1回目の質問とさせていただきます。

◇議長（新井賢次君） 町長。

〔町長 石川眞男君登壇〕

◇町長（石川眞男君） おはようございます。備前島久仁子議員のご質問にお答えします。

まず初めに、住民サービスを低下させないための役場庁舎増築基本計画についてお答えします。ご質問にもありましたように、現在の役場庁舎は昭和59年に建設され、今年で築42年が経過いたしました。42年の歳月を経て、行政サービスの多様化が進み、窓口カウンターや相談室、会議室の不足、執務スペースの狭隘化などが課題となっています。そこで、役場庁舎の増築が図れないかということで、昨年度役場庁舎増築基本計画を策定いたしました。この基本計画では、役場庁舎の増築を考えていくに当たり、建物の全体像の大まかな検討、敷地条件などの整理、庁舎の適正規模や配置の検討、必要とされる面積の算出などを検討いたしました。その基本計画の内容を基に、以下のご質問にお答えします。

まず、1点目の現在の職員の数、1人当たりの作業空間面積についてですが、保健センターを除き、現在役場庁舎内に勤務する職員は161人で、庁舎の延べ床面積の3,695平方メートル全体を作業空間面積と捉えるならば、1人当たりの作業空間面積は約23平方メートルとなります。

次に、2点目の住民課や子ども育成課以外にも狭隘とを感じる課はあるかについてですが、ご質問の2課のほかに、1階では健康福祉課や税務課、3階では学校教育課などでもデリケートな相談を受けることが多く、相談室や相談を受ける窓口スペースが不足していると感じております。各課の執務室内はどれも狭いため、現状ではそういった相談スペースを執務室内に設けることはできないと感じております。

次に、3点目の今後増築を図るに当たり、課の編成や統合あるいは分離について、今後どのような協議を経て、いつまでに方向性を見いだすのかについてですが、現時点では増築に合わせての組織再編等は特に考えておりませんが、昨年度からプロジェクトチームを立ち上げ、窓口のDX化についても検討しておりますので、それらの動向によっては再編等を検討する必要も出てくる可能性はあると考えています。

次に、4点目の住民活動サポートセンターばるの施設や勤労者センターの老朽化も考慮した役場周辺の計画が必要ではないかのご質問についてですが、両施設の建築年数はともに約50年が経過しており、至るところで経年劣化による支障が出ております。また、両施設は旧耐震建物で、耐震基準を満たしておりませんので、この庁舎増築の問題と併せて、今後両施設をどうしていくかということも町として大きな課題となっています。備前島議員ご指摘のとおり、両施設の今後につきましては、両施設の機能や役割、存在意義などをもう一度再確認し、本当に必要な機能を見極め、役場庁舎の増築に併せ、それらの機能移転等を組み込めるかどうかも含めて検討していきたいと考えています。

次に、5点目の今後の設計、建設にかかる期間についてですが、基本計画の概略工程表によれば、設計から増築工事完成までは約4年の歳月がかかることになっております。また、この基本計画では併せて概算工事費用も算出しており、言うまでもなく多大な費用がかかるということが示されています。役場庁舎狭隘化等の解消、言い換えれば住民サービスの向上を目的に庁舎増築の計画を検討し始めたところですが、先ほどもお伝えしましたとおり、課題となっている周辺施設の今後や増築工事に

かかる財源の確保等も併せて検討していきたいと考えておりますので、役場庁舎の増築計画についてはもう少し時間をいただき、慎重に進めていきたいと考えています。

次に、女性の管理職登用が進まない原因と未来へ向けた町の取組についてお答えします。まず、1点目の課長職14名の中で女性は僅か2名、この現実をどう評価しているかについてです。令和7年度まで女性の課長職は3名でございましたが、備前島議員もご承知のとおり、この3月でそのうちの1名が退職となりまして、現在は女性の課長2名という状況でございます。行政ニーズも多様化している中で、女性視点からの考え方や気づきなど、行政サービスの意思決定に関して女性が関わっていくことも大事なことでと考えておりますが、女性職員の中には管理職への登用を望んでいない職員も一定程度存在するものとなっています。管理職の登用につきましては、性別に関わらず能力、適性及び意欲があるかを重視して登用してまいりたいと考えています。

次に、2点目の段階的なステップアップ育成をどう考えているかについてですが、職員育成のモデルケースは入職後、主事や主任など一般職から始まり、次に係長や課長補佐職などの監督職、その次に課長職となるのが基本でございます。その間、定期人事異動による様々な部署での行政経験や役職または担当業務に応じた研修により、町民の期待に応えられるような人材育成をしたいと考えています。

次に、3点目の係長に昇進する男女別の平均年齢と男女の割合についてお答えします。まず、係長昇進の男女別の平均年齢についてですが、過去5年間の事務職の状況を調べてみましたところ、男性が43.9歳、女性が49.7歳となっています。また、男女の割合については、男性75%、女性が25%となっています。

次に、女性の管理職登用に向けた取組についてお答えします。一般事務職員の年齢構成を見ますと、高年層は男性が多く女性が少なくなっていますが、若年層においてはその反対で、男性が少なく女性が多くなっておりますので、今後は女性の管理職や係長職も必然的に増えてくるものと考えています。なお、さきにも申し述べましたが、管理職登用に当たっては、性別にかかわらず能力、適性及び意欲があるかを重視していくことが基本と考えております。その上で、定期人事異動をはじめ、研修や派遣などを通じた人材育成と仕事と育児を両立させる職場環境を整備していくことで自身の成長を促し、自己研さん等につなげてまいりたいと考えています。

◇議長（新井賢次君） 9番備前島久仁子議員。

〔9番 備前島久仁子君発言〕

◇9番（備前島久仁子君） 自席より2回目の質問をさせていただきます。

まず、今の答弁にありましたように職員の1人当たりの作業空間面積は約23平米ということで、最近建設された近隣の庁舎では32平米、そして多いところは40平米ということですので、かなり玉村町の作業スペースは狭いということになります。人口から計算した役場庁舎の面積でも、職員の数から計算した作業空間面積でも、今の町の庁舎は大変狭くなっているということで、これではやは

りいろんな問題が出てくるということで、今回の窓口エリアの混雑の解消だとか、相談室、会議室のスペース確保が優先として、今回の役場の庁舎の増築計画が生まれたものだと思っております。

先日全員協議会において、案としましてすばらしいのが私たちに提示されました。私の通告書は、全協で提示される前に出したものでありますが、全協で、そのようなすばらしいものを見れば、もう今回の質問はなかったかなと思いますけれども、その前の通告ですので、していきたいと思っております。

それで、現実問題としまして、1階に配置されております住民課だとか健康福祉課、子ども育成課、大変いろいろなスペースが足りないということですので、ぜひこの機会に担当の課長さんにどういう部分が今困っているのだということをちょっと伝えていただきたいかと思います。

まず、住民課からお願いできますか。窓口業務は多い、そしてスペースの不足があるということで、今回の計画の中では増床ということになっておりますが、現実問題はどうか。

◇議長（新井賢次君） 住民課長。

〔住民課長 齋藤 博君発言〕

◇住民課長（齋藤 博君） 住民課の現状についてお話しさせていただきます。

住民課につきましては、事務スペースも、職員が擦れ違うのも結構大変なくらい狭い状況であります。また、お客さんで混んでいますので、待合スペースが足りていないというような状況になっております。

以上です。

◇議長（新井賢次君） 9番備前島久仁子議員。

〔9番 備前島久仁子君発言〕

◇9番（備前島久仁子君） 住民課は、一番たくさん町民が来られるところではありますが、特にそこではマイナンバーカードですとかパスポートの申請ですとか、また季節によって混雑するときがあると思いますが、どんなときでしょうか。

◇議長（新井賢次君） 住民課長。

〔住民課長 齋藤 博君発言〕

◇住民課長（齋藤 博君） 季節といいますと、やはり年度替わりの3月、4月が混雑しているような状況です。また、月曜日は来庁者が多い状況となっております。

以上です。

◇議長（新井賢次君） 9番備前島久仁子議員。

〔9番 備前島久仁子君発言〕

◇9番（備前島久仁子君） 次に、税務課にお聞きいたします。

窓口の業務は比較的多いけれども、現在では困窮は見られないということが案の中では提示されておりますが、現実はどうでしょうか。

◇議長（新井賢次君） 税務課長。

〔税務課長 貫井利行君発言〕

◇税務課長（貫井利行君） その案というのはどのような案だか、ちょっとお聞かせいただければと思いますけれども、お願いいたします。

◇議長（新井賢次君） 9番備前島久仁子議員。

〔9番 備前島久仁子君発言〕

◇9番（備前島久仁子君） 先日私たちに全員協議会で配付されました増築の案がありまして、その中に各課別に全部書いてあるのです。これは、課長からの聞き取りなどをもちろん基にして、ベースにして作られたものかなと思いますが、そうではないのですね。分かりました。

では、その案は抜きにしまして、税務課における現状の窓口の業務、また職員の作業のスペースの狭隘化について伺います。

◇議長（新井賢次君） 税務課長。

〔税務課長 貫井利行君発言〕

◇税務課長（貫井利行君） そうしましたら、税務課の事務スペース、窓口の現状についてお伝えいたします。

住民課と同様に、事務スペースについてはやはり今は手狭かなと感じております。それと、窓口なのですけれども、やはり町長の答弁にもありましたとおり、税務課についてはかなりデリケートな相談等を受ける窓口業務でありまして、やはりその辺相談室等があると今後便利なのかなと感じております。よろしくお願いいたします。

◇議長（新井賢次君） 9番備前島久仁子議員。

〔9番 備前島久仁子君発言〕

◇9番（備前島久仁子君） 私たちに全協で示されました案ということは、課長さんからの聞き取りを基に、もちろん相談を基につくっているのかなと私たちは思っておりましたので、今このような質問をさせていただきましたが、現実問題に窓口の対応だとか、また来客数ですとか、大変狭隘化しているですとか、課長さんが感じている今のことで結構ですので、お聞かせ願います。

次に、会計課、案ですと変更は特にないということになっておりますが、いかがでしょうか。

◇議長（新井賢次君） 会計管理者。

〔会計管理者兼会計課長 加賀美博隆君発言〕

◇会計管理者兼会計課長（加賀美博隆君） お答えいたします。

会計課の業務につきましては、納付書で納税の受付というのがメインになるかと思うのですけれども、特に5月になりますと、固定資産税でありますとか自動車の税金の納付書が発行されますので、その期間については混み合うこともあるのですけれども、それ以外の期間につきましては、現状で申し上げますと、特段混み合っているというのはないと私としては認識をしております。

以上でございます。

◇議長（新井賢次君） 9番備前島久仁子議員。

〔9番 備前島久仁子君発言〕

◇9番（備前島久仁子君） 続きまして、住民課と同じように大変狭隘化しているなど感じる健康福祉課、増床して相談スペースを確保するのが望ましいのではないかなということになっておりますが、現実としまして、どういうときにどういうスペースが足りないか教えてください。

◇議長（新井賢次君） 健康福祉課長。

〔健康福祉課長 岡田寛子君発言〕

◇健康福祉課長（岡田寛子君） お答えします。

町長の答弁にもありましたとおり、健康福祉課ではデリケートな相談が多く寄せられています。窓口のカウンターではできない、相談者が来ても話しやすい環境となっておりまして、相談スペースがないということなのですけれども、だからといって相談室というものがあればいいかというと、実はそうでもなくて、そういったセンシティブな内容を取り扱う相談業務であると、個室に職員と相談者と、個室での話合いというのは私どもなるべく避けたいと思っております。相談者と来庁者の相談内容の中で、話がうまく、相談がうまくいかなかったときなどに何かトラブルが発生してしまうと困るので、私どもの執務室から見える状況で、かつ個別の話がしやすい環境というのが必要になってくるので、そこは相談室という個別の部屋になってしまうと、それはそれでちょっと困るなど思っているのですけれども、今現状は何とか工夫してやっていこうということで、以前コロナ禍で設置していた対面に置くアクリル板というのですか、対面でアクリル板を置くのはもういいだろうということで、それを私たち健康福祉課はサイドに置いて、ちょっと個別に話ができるような環境に設定しました。それで声が聞こえなくなるわけでは全然ないのですけれども、来庁者の方の心理的な部分は、そこはカバーできるかなというのと、あと健康福祉課の前の待合がちょっと広いスペースになっているので、そちらのソファ側に行って話をすると。そうすれば私たちも相談している様子が見えるし、周りともちょっと距離が保てるような形で、相談者の人が多少話しやすい環境になるのかなということで、そういった対応を取っています。

以上です。

◇議長（新井賢次君） 9番備前島久仁子議員。

〔9番 備前島久仁子君発言〕

◇9番（備前島久仁子君） 健康福祉課の場合は、増床して相談スペースを確保ということに案ではなっておりますけれども、やはりいろんな部分が足りないということは感じます。

次に、子ども育成課なのですが、窓口のスペースは確保、そして保健センターとの連携が必要で、案1、案2がありまして、案1は1階にということになっているのですけれども、子ども育成課、様々な要望が大変増えているかと思います。相談室ですとか、窓口業務の混雑はいかがでしょうか。

◇議長（新井賢次君） 子ども育成課長。

〔子ども育成課長 畑中哲哉君発言〕

◇子ども育成課長（畑中哲哉君） お答えさせていただきます。

現状、まず子ども育成課、役場の3階にありますけれども、実際エレベーターがありますので、3階にあるデメリットは感じていないというのが正直なところでございます。ただ、保健センターが確かに1階にありますので、こどもまんなかセンターにじいろとの関係と言われますと、やはり同じフロアにあったほうがいいのかと思いますので、ちょっとここは難しいところだなと思います。現状は、3階の廊下にキッズスペース、遊び場と相談のテーブルを置いてございますけれども、それは窓口に近いので、スタッフはちょっと資料を取りに行ったりというときは便利かなと思うのですが、廊下自体を狭くさせてしまっておりまして、やはり大会議室があるので、たくさんのお客さんが移動するときにそのテーブルで保育所の入所の相談をしているとか、そこはちょっと手狭で、何とかしたいなとは思っているところでございます。正直どのような形に最終的になるか分かりませんが、スタッフの意見を聞きながらいいほうに進んでいければと思います。

◇議長（新井賢次君） 9番備前島久仁子議員。

〔9番 備前島久仁子君発言〕

◇9番（備前島久仁子君） にじいろセンターができたことなどによって、子ども育成課、子供自体の少子化は進んでいても子供関係の要望が非常に増えているということは感じますので、3階に学校教育課とともに3階で、そして広いスペース、増築の部分も子ども育成課が使うということになっている案もありますので、その案がとてもいいかなと私は思いますけれども、一応案1、2ということで、現場の窓口の状況を今話していただきました。

そして、2階は今度総務課になりますが、総務課の現状はいかがでしょうか。

◇議長（新井賢次君） 総務課長。

〔総務課長 丸山智志君発言〕

◇総務課長（丸山智志君） 総務課といたしましては、スペース的には少しは余裕があるかと思うのですが、2階と3階で分かれておりますので、その辺がちょっと不便なところがありますので、そちらが一緒になるような形になればいいのかなと思っております。

◇議長（新井賢次君） 9番備前島久仁子議員。

〔9番 備前島久仁子君発言〕

◇9番（備前島久仁子君） 案ではそのように2階と3階に分かれているため、2階にということになっております。

続きまして、企画課は現状維持と出ているのですが、いかがでしょうか。

◇議長（新井賢次君） 企画課長。

〔企画課長 関根伸行君発言〕

◇企画課長（関根伸行君） お答えします。

企画課といたしましては、執務スペース自体にそれほど狭さを感じていることはないのですが、ただ企画課はDV相談などの窓口にもなっておりますので、そういった場合にやはり相談室の確保といえますか、急な相談者が来たときに、ではどこの会議室で相談しようかといったときになかなか取れなかったりとか、そういった場合には4階まで行って、議会にお願いして、第1委員会室ですとか、会議室、全員協議会室などをお借りするようなことがあります。そういった場合にやはり会議室のスペースというのは、ほかの課もたくさんあるので、スペースを設けていただければと思います。あとは荷物、書類や資料が増えていますので、そういったものをしまっておく場所などについてもやはり不足しているような状況があります。

以上です。

◇議長（新井賢次君） 9番備前島久仁子議員。

〔9番 備前島久仁子君発言〕

◇9番（備前島久仁子君） 分かりました。

次に、都市建設課、これは業者と打合せが大変多くて、地図を広げるスペースなどが必要とありますが、案ではスペースが減少されているのです。現状はどうでしょうか。いかがでしょうか。

◇議長（新井賢次君） 都市建設課長。

〔都市建設課長 原田英樹君発言〕

◇都市建設課長（原田英樹君） お答えいたします。

都市建設課につきましては、執務スペースにつきましては1階等と比べますと、それほど手狭感を感じておりません。ただ、議員さんのおっしゃられたように、打合せをするときにはちょっと狭いかなという感じがします。また、都市建設課は工事関係が多いですので、設計図書とか参考図書とか、そういったものを保管する場所がもうちょっとあればいいかなと感じております。

以上です。

◇議長（新井賢次君） 9番備前島久仁子議員。

〔9番 備前島久仁子君発言〕

◇9番（備前島久仁子君） 次に、3階へ参ります。

経済産業課、案では将来勤労者センター内の職員が移動してくる可能性を考えて面積は増ということになっておりますが、現実としまして、今現在はいかがでしょうか。

◇議長（新井賢次君） 経済産業課長。

〔経済産業課長 平野敏行君発言〕

◇経済産業課長（平野敏行君） お答えいたします。

経済産業課が所管している業務としましては、農政、それから商工がメインになってくるのですが、特に商工の業務につきましては勤労者センター内の執務室を活用させていただきまして、そ

こで業務を実施しているのですが、ただそもそもその執務をやっているところが管理部屋というのですか、勤労者センターの管理部屋を利用させていただいているということもございまして、保存用のキャビネットも含めるとかなり狭い状況でございます。その中に、さらに消費生活センターの相談員の執務室も兼務しているということもございしますので、今現在かなり動線が、動くのにちょっと大変な状況になっているのが現状でございます。

あとは、特に消費生活センターの相談につきましては、やはり健康福祉課と同じようにセンシティブなお話が結構来るケースが多いのが現状でございます。そういった中で、消費生活センターの一部を今現在、ロビーを一部改造して、そこを相談スペースとして活用しているのですが、やはり相談者がいると、お金の問題であったりとか、かなりセンシティブなお話について相談に乗る中で、かなり紛糾するといいますか、少し感情的になるケースもございします。そういったときには担当の商工労働の係員がすぐに駆けつけるような形で、ちょっと開放的な形にして相談を実施しているのが実情でございます。話の内容は他人に聞かれたくないけれども、安全を確保するということも必要になってきますので、今後最高なパターンとすると、執務室に併設して、他人には聞こえないけれども、職員がいつでも駆けつける、なおかつ相談内容が職員の耳にも入るような、そんな形ができればいいかなと思っています。

あとは、本庁舎にございます農政サイドの執務室でございますが、こちらもやはり全体的に狭い空間でございますので、人が立ち相談したりとか、キャビネットが開いているときにはやはりその前を通ることができませんので、迂回するという必要がございます。そういった動線の確保もできると、職員の業務に当たってストレスが減るのかなとは感じております。

以上です。

◇議長（新井賢次君） 9番備前島久仁子議員

〔9番 備前島久仁子君発言〕

◇9番（備前島久仁子君） 続きまして、最後になります。学校教育課、現状はいかがでしょうか。

◇議長（新井賢次君） 学校教育課長。

〔学校教育課長 青木栄二君発言〕

◇学校教育課長（青木栄二君） 学校教育課の現状については、保護者の相談についてはそんなにたくさん来るわけではないので、そういったときは子ども育成課が使っているお部屋、あるいは学校教育課のところにあるちょっと仕切られた相談室で対応しています。基本的には子ども育成課であったりだとか健康福祉課、そういったところとの相談業務を一緒にやっていくことが増えるかと思うので、そういった課と近くのところにあるといいよなというところはあります。

また、業務スペースという中では、出向して役場に来ている教員の机のところには、学校用のパソコンと役場用のパソコンと2台置いてあります。そのように2台置いてあるという形になると、自分の作業スペースというものがほかの職員と比べると狭い状態になるかなと思っていますので、そうい

った作業スペースの広さがあると助かるなというところはございますが、そういったところが今の現状です。

◇議長（新井賢次君） 9番備前島久仁子議員。

〔9番 備前島久仁子君発言〕

◇9番（備前島久仁子君） 今、課長さんの生の声をお聞きいたしました。こうした生の声を、これから造っていく、増築していくに当たって、ぜひそれを一番に考えて造っていただきたいと思います。少し案として離れているかな、乖離しているかなというところが見受けられます。上下水道課、生涯学習課、そして議会事務局はこの中に入っていないので、ちょっと今日答弁していただくことは、せっかく来ていただきましたけれども、難しいかなと思います。

町長にお伺いしたいのですが、勤労者センターが1977年に建設で、50年近くたっております。震度5強程度の揺れで倒壊しないという設計になっておりまして、それ以上では倒壊、崩壊のリスクが高く、長寿命化を優先して行う建物だが、今後はお金をかけて増改築はしないということになっております。そして、住民活動サポートセンターぱるの施設も1975年にできまして、もう50年たっております。旧耐震の建物であります。この庁舎の増築計画をするに当たって、当然その目の前にありますぱるの施設、そして勤労者センター、先ほども答弁にありましたけれども、この施設の今後、そしてその機能、そうしたものも今後どのように増築の部分に入れるのか、そして2つの機能をどうするのかということが大変必要になってくると思いますが、町長自身どのようにお考えですか。

◇議長（新井賢次君） 町長。

〔町長 石川眞男君発言〕

◇町長（石川眞男君） ここに来て、全ての建物について建築してからの年数が非常に増えてきて、40年、50年という形で、文化センターについても対応していかなければならないところですよ。それで、特にマイナンバーカードの申請のときはお客さんがたくさん並んでいて、住民課のところは大変だったのです。それで、今度はマイナンバーカードが更新の時期だから、そういうものもあって恒常的に来庁者は増えているのかなという感じがします。人口減少という、過渡期というのはいろんな相談事が増えるような感じもするので、役場機能もそういうものを踏まえて、全体的に、トータルに対応していかなければならないと思っています。

それと、今言ったぱると勤労者センター、これは本当に50年以上過ぎて、耐震性にも非常に問題があるということで、今どうにしようかというところで、一部新庁舎の改築のところに入れることができるかどうかも含めて検討してもらって、ぱると勤労者センターを一緒にやるのか、やるとしても床面積は減らしていくわけけれども、あと文化センターとの関わりとか、この1つ、2つのことをやるにも多くのところまでの将来性を見込んでいかなければならないので、そういうものも踏まえて庁舎の増築工事の影響が来ると思いますので、そこはちょっと丁寧にやりながら、それからまた費用がかかりますから、その費用の算段もしていくということもありますので、それこそが玉村町の将来

に向けての一つの、また新たな礎になれるような、きちんとした町づくりの一つとして、この全体をちょっと考えていっている過程です。

◇議長（新井賢次君） 9番備前島久仁子議員。

〔9番 備前島久仁子君発言〕

◇9番（備前島久仁子君） 現在の勤労者センターとぱるの利用状況について教えてください。

◇議長（新井賢次君） 経済産業課長。

〔経済産業課長 平野敏行君発言〕

◇経済産業課長（平野敏行君） ご質問についてお答えいたします。

勤労者センターの利用者数でございますが、令和7年度につきましては年間で3万675人、月当たりの平均ですと2,556人の方々に利用していただいております。

以上です。

◇議長（新井賢次君） 企画課長。

〔企画課長 関根伸行君発言〕

◇企画課長（関根伸行君） ぱるの利用率ということでありましても、まずふるハートホールにつきましては、1年間365日のうち休館日が9日ありますので、これを差し引きますと、実際に年間で利用できるのが356日となります。そのうち利用実績として350日利用されているということで、ほぼ毎日利用があるということで、98.3%の利用率、稼働率ということになっております。年間で延べ人数として1万5,407人の利用があったということでございます。

また、ミーティングスペースもございまして、こちら同じ開館日となるのですけれども、308日の利用ということで、86.5%の利用率ということです。こちらについては、年間で3,664件の利用ということでございました。ただ、基本的にぱるの施設、ほとんど毎日のように利用されているということなのですけれども、実際予約できるのが2か月前からということなので、予約開始日には雨の日でも風の日でも暑い中でも予約を取ろうと10団体のくらい方々が並んでもらっているような状況でありますので、住民活動団体にとっては欠かせない施設になっているということです。

以上です。

◇議長（新井賢次君） 9番備前島久仁子議員。

〔9番 備前島久仁子君発言〕

◇9番（備前島久仁子君） 大変両施設ともに利用者が多くて、そしてその利用されている施設をどのようにしていくかということが今後の課題だと思いますが、先ほど増築に関してのプロジェクトチームをつくったということがありますが、このプロジェクトチームのメンバー、構成員はどのようになっているのでしょうか。

◇議長（新井賢次君） 企画課長。

〔企画課長 関根伸行君発言〕

◇企画課長（関根伸行君） 窓口DXの関係のプロジェクトチームなのですけれども、人数的には総務課から3名、税務課あるいは健康福祉課、あと学校教育課、住民課と実際実務に携わる方が中心となって会議を行っているのですけれども、大体20名程度の人数で運営しているところです。

◇議長（新井賢次君） 9番備前島久仁子議員。

〔9番 備前島久仁子君発言〕

◇9番（備前島久仁子君） 職員の方が中心になって行っているということによろしいでしょうか。

◇議長（新井賢次君） 企画課長。

〔企画課長 関根伸行君発言〕

◇企画課長（関根伸行君） 職員のほうで、プロジェクトのリーダーが係長ということで、それ以下、それぞれの担当課の職員で会議を行っております。

◇議長（新井賢次君） 9番備前島久仁子議員。

〔9番 備前島久仁子君発言〕

◇9番（備前島久仁子君） 通常の業務をやりながらの、さらに仕事が増えるプロジェクトチームの結成でありますけれども、外部からの人を入れて、それぞれの課は分かりますけれども、それをどういうふうにまとめるとか、相談室をつくるとか、そういうものの案ですとか企画、そして設計、そういうものに対してのプロの目というのは入れていないのでしょうか。

◇議長（新井賢次君） 総務課長。

〔総務課長 丸山智志君発言〕

◇総務課長（丸山智志君） その辺に関しましては、プロジェクトチームにつきましては、あくまでも窓口のDX化とか、そちらのほうを中心としてやっておりますので、役場庁舎となりますと、総務課のほうを中心にやりまして、設計とか内容に関しましては、基本的には業者に業務を委託するような形にはなるかと思います。

◇議長（新井賢次君） 9番備前島久仁子議員。

〔9番 備前島久仁子君発言〕

◇9番（備前島久仁子君） 分かりました。先ほど各課の課長から現場の声をいただきましたので、そういうことをぜひ中心に取り組んでいただきたいと思います。

先ほど町長にお聞きしましたけれども、勤労者センター、そしてばるの機能をどこにどのように持っていくのか、また文化センターとの兼ね合いもあるので、これは慎重に進めていかなくてはいけないということで話をいただきましたが、実際に庁舎を増築するわけで、そしてこの北側の公園の半分ほどまでの大きな増築計画、それも1階、2階なのか、3階までなのかという計画がもう進んでおりまして、そして2階までなのか、3階までなのかという案も図面で示されておりますので、そういたしますと、今度勤労者センターとばるの機能、そしてばるの事務所をどこに移していくのかということもだんだん考えていかなくてはなりません。2030年までには完成してオープンしたいというこ

とでありますので、もう具体的に考えていかななくてはなりません、文化センターも視野に入れて、そしてまちなか交流館・スマイル、その2階なども使っていくという、そういう視点はありますか。

◇議長（新井賢次君） 総務課長。

〔総務課長 丸山智志君発言〕

◇総務課長（丸山智志君） この増築を進めていくに当たりましては、周辺の勤労者センターやふるハートホール、こちらのほうもありますので、役場の増築をする中でこちらも含めていけるのかどうか、それとも単独でそれぞれにするのか、それはないとは思いますが、1つにしてやっていくのかということも今後考えていかなければならないと思うのですが、文化センターとかまちなか交流館は、そちらのほうまではちょっと考えていないのですが、これをどのような形でやっていけばいいのかというのを、今年度中にいろいろ業務を委託しながら研究していきたいと考えております。

◇議長（新井賢次君） 9番備前島久仁子議員。

〔9番 備前島久仁子君発言〕

◇9番（備前島久仁子君） お伺いしますが、ばるの施設と勤労者センターは、今後は老朽化してこれ以上耐震にも堪えられないということで、今後は予算をかけてそこを改築したり修繕したりすることはなく、その機能をどこかに移しつつ、そしてそれを使えるだけ使っていくという、そういう判断なのでしょうか。

◇議長（新井賢次君） 町長。

〔町長 石川眞男君発言〕

◇町長（石川眞男君） 今でもちょっと不具合があるところなんかは、ちょっと我慢してもらっているようなところもありますので、あそこに手をかけてもなかなか、だからちょっと我慢してもらいながら、その機能の一部を新しい庁舎の中で吸収できるかということないしは、できないとしたらどのくらい、また一部できて、そうすればどの程度のものが、要するにばる機能、それから勤労者センター機能の、住民との協働というところでの大事なものですから、そういうところを考えて、それは新しい建物の中で、という形には当然なと思います。ただ、どの程度の規模をやるかというのは今検討中です。

◇議長（新井賢次君） 9番備前島久仁子議員。

〔9番 備前島久仁子君発言〕

◇9番（備前島久仁子君） 勤労者センターの一番奥には、フラダンスですとかそういうことをやっている団体もありますので、そうした活動ができるということになりますと、増築した部分ではどうしても無理かなと思いますので、そういうものも文化センターに移していけるのかどうか、あらゆる可能性を考えて模索していただければと思います。機能の面と、そして住民サービスを減少させないということと、そして何より毎日そこで働く職員の皆さんが快適に作業できるスペースというもの

も確保して、動線も確保して、そして人と人が職員同士がぶつかるというようなことのないように。今まで大変狭かったということが、人口と面積で割ってみますと分かりますので、ほぼ倍の面積があってもいいという結果になっておりますので、その辺をよく精査されて、今後しっかり増築計画を進めていただきたいと思います。

続きまして、女性の管理職登用の件であります。係長に昇進する男女別の平均年齢と男女の割合ということをお伺いしました。男性が43.9歳、女性が49.7歳、そして男性が75%であって、女性は25%ということで、なかなか係長に昇進する年齢、そしてパーセントも女性のほうがかなり低くなってきております。今、若年層の職員は女性が多いので、だんだん職場の環境を整えていくという答弁でありましたが、町長ご自身はどのようにこの問題を考えていらっしゃいますか。

◇議長（新井賢次君） 町長。

〔町長 石川眞男君発言〕

◇町長（石川眞男君） 昇進の件、課長が少ないという件ですか。年齢構成で男女比を見ると、本当に50代前後が男性のほうがぐっと多いのです。そういう中で、それでももちろん男女関係なく、やはりそのポジションで責任を持って仕事していただける人にはしていただくというのが当然の話だと思っています。そういう中で、やはり玉村町役場の長い歴史の中で、習慣みたいなものがあるのですか、それから合併を経ていないというのがあります。この20年間、合併していなかった。合併したところというのは、人事においてもいろんな形でまれてきているわけですが、合併していないという中で職員の昇進構造を見ても、前のような状況で男性が中心でというのをまだ引き継いでいる面があるのだとしたら、それは男性も女性もそういう感覚から抜け出ていけるような、本当に構えができて人にはどんどんそういったポジションで活躍してもらおうというのは当然の話だと思っています。

◇議長（新井賢次君） 9番備前島久仁子議員。

〔9番 備前島久仁子君発言〕

◇9番（備前島久仁子君） 町長ご自身は、そういうことにはわだかまりというものはあまりお持ちではないと思いますので、それにしても男性、女性の比率が75%、25%はちょっと残念かなという数字だと思います。男女の職員の数が半々であれば、できるだけその半々に近づけるよう、50%、50%に近づけるような、係長、そして課長補佐、そして課長という、そういうものが望ましいと思いますけれども、今後能力、適性、そして意欲を考慮した女性登用の人事がなされるように非常に願っております。玉村町、ここ最近を見ましても議員13名のうち5人が女性であって、女性の視点や意見が大変生かされるような風土かなと思いますので、その辺は進めていただきたいと思います。

そして、先進国の中を見ましても、日本においては非常に、女性の政治の就業者、議員もそうですが、及び管理職に占める女性の割合が、先進国、そしてアジアの中でも大変低い、これは自慢にはなりませんが、大変低い数字です。女性の管理職、そして女性の政治の就業者の比率はフランス、

スウェーデン、ノルウェー、オーストラリア、シンガポール、韓国、フィリピン、マレーシア、ドイツ、イギリス、アメリカに比べても比率が一番最低なのです。ですから、比率を上げるということよりも、女性の意見や視点を生かせるような職場の環境づくりをぜひ町長にお願いしたいと思います。

そして、地位が人をつくるという言葉がありますけれども、役職や立場が与えられることで、それに見合う責任感や自覚が生まれてきます。結果として、その人の能力や人間性が引き上げられます。なかなか女性は手を挙げる人がいないのだ、家庭とかいろんな問題があって、なかなか消極的であるということも1つかと思いますが、そういう先に行く女性のモデルがなければ、なかなかついていくということも難しいと思いますので、どうぞ育てるというつもりで、女性の管理職登用を願っておりますので、どうぞ町長、一言よろしく願いたします。

◇議長（新井賢次君） 町長。

〔町長 石川眞男君発言〕

◇町長（石川眞男君） 私もそれを望んでいますけれども、やはり無理やりやるというのは、またこれは後で弊害が出てしまうこともありますので、そういうのを結構聞いているので、しかしちゃんとそのようには仕掛けしますから、期待してください。大丈夫ですよ。

けれども、もっと言うと、アイスランドというところで1975年に女性の休日というものがあったのです。やはり女性が、こんなに家事とかいろんなことをやっているのだけれども、男社会だったということで、1日女性が仕事を、休日ということで休んだのです。そして、ほとんど女性が職場にいなくなってしまったので、その子供を職場に連れて夫に預けさせて、では残った夫たちは何したかという育児です。大きなテレビの前に子供を連れていって、漫画を見させたり、要するにいわゆる男は仕事だと思っていたところで、女性が育児や仕事、職場放棄してしまったので、子供たちの世話をしなければならなくなってしまったと。そのとき男性が気づいたのです、この女性の働きの大きさというのを。そのことによって、今大統領とか首相に女性になっているような、そういう国もありますので、これは意識、社会全体がもう一度本当に女性の、そして男性の社会に果たしている貢献度、力というものをお互い認め合うという中での管理職登用というのが、土台が出てくれば、これは自然のうちに出てくると思います。私どもはそう思っています。

◇議長（新井賢次君） 9番備前島久仁子議員。

〔9番 備前島久仁子君発言〕

◇9番（備前島久仁子君） 昭和は、寿退社という言葉があって、結婚すると女性は家庭に入って家庭を守って子供を育てるという時代が昭和はありました。その時代から、男性が育児や家事を手伝うという平成になってきて、そして令和は共に家事や育児をする時代で、男性が小さな子供たちを保育園に送迎するような姿なんかも日常的に見ております。しかし、管理職には抵抗があるのか、なかなかそういうものがまだまだ日本では遅れているなと感じます。それは、女性のやる気、そういうものも伸ばす土壌がなかなかなかったのかなと感じますが、これからどうぞ女性の視点や意見はどんどん

反映されるような、そして明るい雰囲気の玉村町であってほしいなと思いますので、その意味も込めて質問させていただきました。

これで終わりますので、どうぞよろしくお願いいたします。ありがとうございました。

_____ ◇ _____

○散 会

◇議長（新井賢次君） 以上をもちまして、本日の日程は全て終了いたしました。

これにて、散会といたします。

なお、次の本会議は12日金曜日です。午後2時30分までに議場へご参集ください。

ご苦労さまでした。

午前10時散会